

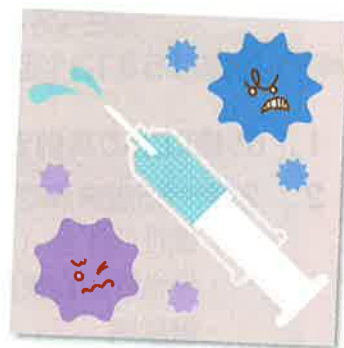
重症感染症のワクチン接種による予防 (肺炎球菌感染症およびインフルエンザ)

佐賀大学医学部国際医療学講座臨床感染症学分野 教授

佐賀大学医学部附属病院感染制御部 部長 青木洋介 先生

気 管支や肺が病原微生物に感染することを呼吸器感染症と呼びます。気管支は空気の通り道としてのパイプの役割のみですから、気管支炎を起こしても息が苦しくなることは一般にありません。しかし、肺炎は、肺の一番奥で酸素を血液に受け渡す場所が冒されるので、息切れや呼吸困難を伴う場合が少なくありません。気管支炎に罹^{かか}って肺炎を併発する場合がありますが、多くの場合、抗菌薬（以前は抗生物質と呼んでいました）による治療を受ければよくなります。しかし、中には短い時間で死に至ることの多い肺炎もあります。これが、肺炎球菌、という細菌による肺炎です。

一方、毎年冬から春にかけて流行する高熱性疾患にインフルエンザがあります。熱と咳が出るのは気管支炎の症状と似ていますが、インフルエンザは体力の消耗が激しい全身感染症であり、幼児やお年寄りには合併症のために亡くなる場合もあります。肺炎球菌性肺炎もインフルエンザもワクチン接種で重症化を予防することが可能です。今回はこの二つの呼吸器感染症とワクチンについて簡単にご紹介いたします。



肺炎球菌性肺炎

肺炎を起こす細菌は10種類以上もあります。肺炎球菌は顕微鏡で観ると丸い形をしていること、および、全肺炎の原因菌の中に占める割合が「四分の一」と最も多いため、**はいえんきゅうきん**と呼ばれます。ここで、「死亡率の高い肺炎を起こす菌が全部の肺炎の四分の一も占めるなんて！」とご心配になる必要はありません。肺炎球菌には血清型と呼ばれる、人間で言えば血液型に相当する化学的性状が約90種類もあります。殆どの血清型は抗菌薬で治療すれば速やかに改善する肺炎を起こすのですが、全90種類のうち致死率的肺炎を来す病原性の高い血清型が23種類知られています。肺炎球菌ワクチンは、この23種類の血清型の成分をワクチンとして混合したものです。

少し複雑ですが、肺炎球菌は肺炎だけでなく、髄膜炎や敗血症と呼ばれる重症感染症を起こすことも少なくありません。上記の毒性の強い23種類のうちのいずれかの肺炎球菌に感染すると、致死肺炎やこれらの重症感染症を引き起こし、患者さんは24〜48時間以内に死亡することも稀まれにあります。受診して頂いてすぐに抗菌薬による強力な治療を開始しても、救命できない場合もあります。勿論、全ての人がこの重症感染症に等しく感染するということではなく、免疫能（感染症から身を守るために本来人体に備わっている抵抗力）の低下や異常を認める人で感染の危険性が高いことが知られています（表1）。一般に人から人に感染が広がることはありません。65歳以上の方、および表1に挙げた基礎疾患を有する方には肺炎球菌ワクチン接種をお薦めします。

表1：肺炎球菌ワクチン接種が推奨される対象者

（接種は5年に1回です：毎年ではありません）

- 65歳以上の高齢者
- 2歳～65歳未満で下記の慢性疾患やリスクを有する人
 - 慢性心不全（うっ血性心不全、心筋症など）
 - 慢性呼吸器疾患（肺気腫など）
 - 糖尿病
 - 大酒家
 - 慢性肝疾患（肝硬変など）

- 過去に脾臓摘出を受けた人、脾機能不全の人
- 老人施設や長期療養施設などの入居者
- 易感染性患者

白血病、リンパ腫、多発性骨髄腫、全身性の悪性腫瘍、慢性腎不全、ネフローゼ症候群、移植患者のように免疫抑制療法を受けている人、副腎皮質ステロイドの長期全身投与を受けている人

かかりつけの先生に、ご自分がこのリスクを有する者に該当するか、お尋ねになってみて下さい。このワクチンは1回接種するとその効果は5年程持続することが判っています。従って5年毎に反復接種することが予防効果（感染

を予防する）を確実にする手段です。5年より短い期間での再接種は副反応の懸念から推奨されませんのでご注意下さい。なお、肺炎球菌ワクチンを接種すれば肺炎に罹からない、ということではありません。23種類以外の

肺炎球菌に感染する可能性は低いながらゼロではありませんし、肺炎球菌以外の細菌による肺炎罹患りかんを防止する効果はありません。しかし、「肺炎球菌による致死肺炎に罹患する」というリスクをワクチンで回避することが可能です。現在、このワクチンは日本全国の多くの自治体で公費助成の対象となっており、佐賀県でも11の市町でこの制度が取り入れられています（別表）。



（別表）

各市町任意予防接種の助成状況

※○…助成あり、×…助成なし

平成25年10月30日現在

市 町 名	①成人用肺炎球菌ワクチン（23価）	②子どものインフルエンザ	備 考
佐 賀 市	×	×	
唐 津 市	○	×	①対象：75歳以上、助成額：3,500円（1回のみ） ※市内契約医療機関に限る
鳥 栖 市	○	×	①対象：65歳以上、助成額：3,500円
多 久 市	○	×	①対象：65歳以上、助成額：2,000円
伊 万 里 市	×	○	②対象：0歳～就学前の乳幼児、助成額：2回目に1,000円助成
武 雄 市	×	○	②対象：0歳～中学3年生、助成額：1人2,000円 （0歳～13歳未満1,000円×2回、13歳以上2,000円×1回助成） ※武雄市杵島郡内の指定医療機関に限る
鹿 島 市	×	○	②対象：0歳～中学3年生、助成額：1,000円 （13歳以上1回、13歳未満2回）
小 城 市	○	×	①対象：65歳以上、助成額：3,000円
嬉 野 市	○	○	①対象：70歳以上、助成額：4,000円 ②対象：0歳～中学3年生、助成額：1,000円×2回
神 埼 市	×	×	
吉野ヶ里町	○	×	①対象：65歳以上、助成額：2,000円 ※町内の指定医療機関に限る
基 山 町	○	○	①対象：65歳以上、助成額：上限3,000円（助成回数2回以内） ②対象：0歳～中学3年生、助成額：1回1,500円（2回を限度） ※指定医療機関に限る
上 峰 町	×	×	
み や き 町	×	×	
玄 海 町	×	×	
有 田 町	○	○	①対象：70～79歳、助成額：3,000円 ②対象：6ヶ月～就学前の幼児、助成額：2回目の接種時に1,000円
大 町 町	○	○	①対象：70歳以上、助成額：3,000円 ※町内指定医療機関に限る ②対象：0歳～中学3年生、助成額：1人2,000円 （0歳～13歳未満1,000円×2回、13歳以上2,000円×1回助成） ※武雄市杵島郡内の指定医療機関に限る
江 北 町	○	○	①対象：70歳以上、助成額：5,000円 ※町内指定医療機関に限る ②対象：0歳～中学3年生、助成額：1人2,000円 （0歳～13歳未満1,000円×2回、13歳以上2,000円×1回助成） ※武雄市杵島郡内の指定医療機関に限る
白 石 町	×	○	②対象：0歳～中学3年生、助成額：1人2,000円 （0歳～13歳未満1,000円×2回、13歳以上2,000円×1回助成） ※武雄市杵島郡内の指定医療機関に限る
太 良 町	○	○	①対象：70歳以上、助成額：3,500円（生活保護世帯の場合は全額） ②対象：0歳～中学3年生、助成額：1回接種者1,500円、 2回接種者（12歳以下）3,000円（生活保護世帯は全額）

※助成方法は市町によって異なりますので、詳しい内容については、市町役場の担当窓口までお問い合わせください。

インフルエンザ

インフルエンザはウイルス（インフルエンザウイルス）により引き起こされる急性発熱性疾患です。肺炎球菌と異なり、低温・乾燥という季候条件でウイルスが活発に増殖するため冬～春にかけて感染が流行します。また、感染した人の咳やくしゃみに含まれる「飛沫^{ひまつ}」にウイルスが存在するため、患者さんの周囲の人（職場、学校、家庭など）に容易に感染が拡大します。この場合、感染した人に接触してから自分が発症するまで約48時間以内と言われています。飛沫が付着したドアノブ等に触れた自分の手指を介して感染することもありますので、外出後の「うがい」のみでなく、「手洗い」も感染予防に有効です。

感染した場合は、急な発熱（39℃を越える高熱も稀^{まれ}ではありません）と咳が特徴で、症状の発症とともに全身の筋肉痛や関節痛を伴うことが多く、患者さんは全身の疲労感、倦怠感（だるさ）を強く訴えることが一般的です。現在は15分程度でインフルエンザを診断することが出来る検査が一般のクリニックでも使用可能です。ただし、検査結果が陰性でもインフルエンザであることを完全に否定することはできません。約10年前からインフルエンザ治療薬が利用可能になり、薬によっては1日だけ、あるいは5日間使用するものなど様々です。注射薬もあります。

インフルエンザは罹患する人が多いため、毎年のワクチン接種による予防が極めて重要です（本ワクチンはインフルエンザ

に感染することを予防するのではなく、感染しても発症することがないように予防する、あるいは発症しても重症化することを目指す効果が期待できます。特に、インフルエンザウイルス感染症は幼児や高齢者では重篤になる場合があるため、

表2：インフルエンザワクチン 定期予防接種の対象者（接種は毎年です）

1. 65歳以上の高齢者
2. 60歳～65歳未満で下記の病状を有する人
 - ・ 心臓、腎臓、もしくは呼吸器の機能に障害があり、身の生活が制限される
 - ・ ヒト免疫不全ウイルス感染により免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能である

ワクチン接種を受けることが強く推奨されます。定期接種（国や自治体が接種を強く勧めているもので経済的負担の少ない―公費援助のある―ワクチン）の対象となる人について表2に記載します。定期接種の対象でなくとも、表1に示した免疫能の低下を有する人は毎年のインフルエンザワクチン接種を受ける方がよいでしょう（65歳以上のインフルエンザワクチン接種は県内全市町で公費助成があります。また、子どものワクチン接種も10市町で助成されています（別表））。

